

【農業水利施設の魅力を知ってほしい (No.21) ; 小貝川三堰 (2025年1月)】

今回は農村工学研究部門が立地する茨城県南部にある小貝川にある頭首工3堰である、福岡堰、岡堰、豊田堰を紹介する。つくば市民としては、福岡堰の桜並木の美しさはすぐに想像できるが、農業水利施設として見ても面白いものだった。なお文中の地図は、地理院タイルに写真位置番号等を追記して掲載したものである。



図1 三堰の立地

## 1. 福岡堰

福岡堰の沿革を福岡堰土地改良区( <http://www.fukuoka-suiri.or.jp/> )から引用して紹介する。茨城県南部の小貝川流域は元々湿地帯であったが、1625年に伊奈忠治によって山田沼と呼ばれた沼に堰を設けて、この時に現在福岡堰の幹線水路となっている台通用水路と川通用水路が開削された。これにより安定した利水が可能となり受益地である谷原領の水田面積が増加した。現在の頭首工は1970年に完成したものである。

頭首工(写真A)から取水されると、水路幅が広い水路(写真B)を流下する。このあたりは桜並木となっている。写真Cは台通用水路と川通用水路の分土工である。ここから台通用水路を辿っていく。水路幅は写真Bと比べてほぼ半分となり、台地の際を流下する。幹線水路からは写真Eのように用水路壁面にある直接分土工から幹線水路と垂直にある支線水路に要所要所で分水する。基本このシステムがしばらく続く。

写真F地点で二股に分水する分土工があり、写真Gは伊丹排水機場への分土工(余水吐)である。台通用水路はさらに下流に続く(写真H)。

福岡堰は台通用水路も川通用水路も頭首工から最末端まで歩くと相当距離がある。しかし、台通用水路はTXみらい平駅を拠点にすればアクセスしやすい。ちょっと散歩に行かれてはいかがだろうか。



図2 福岡堰 (その1)

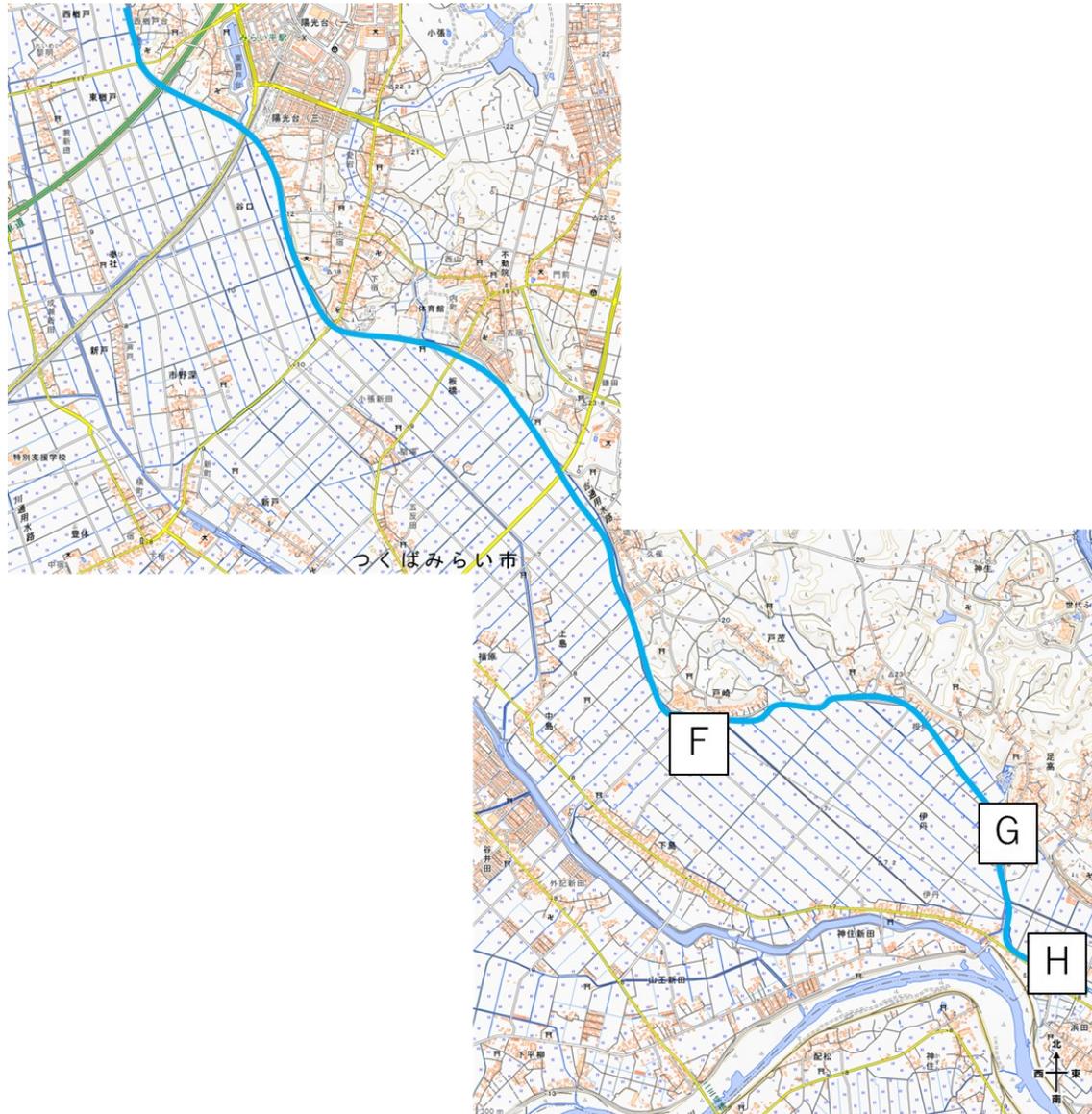


図3 福岡堰 (その2)



A



B



C



D

写真1 福岡堰 (その1)



E



F



G



H

写真2 福岡堰 (その2)

## 2. 岡堰

岡堰は福岡堰を築造した伊奈忠治によって 1630 年に設置された。取手市 HP ( <https://www.city.toride.ibaraki.jp/maibun/bunkakatsudo/rekishi/rekishiisan/ibaraki100sen.html> ) によれば、堰の設置で相馬 2 万石とよばれる広大な農地が造成されたとのことである。堰は明治期に煉瓦造り、昭和 21 年にコンクリート製となった。

現在の岡堰頭首工は写真 I のものである。写真 J 地点で二股に分水する。南側に分水した用水路を少し進むと、写真 K にあるような揚水ポンプによる取水施設や写真 L のような分水工があった。岡堰頭首工付近は岡堰水神岬公園として整備されている。公園まで関東鉄道ゆめみ野駅から徒歩 25 分程度である。

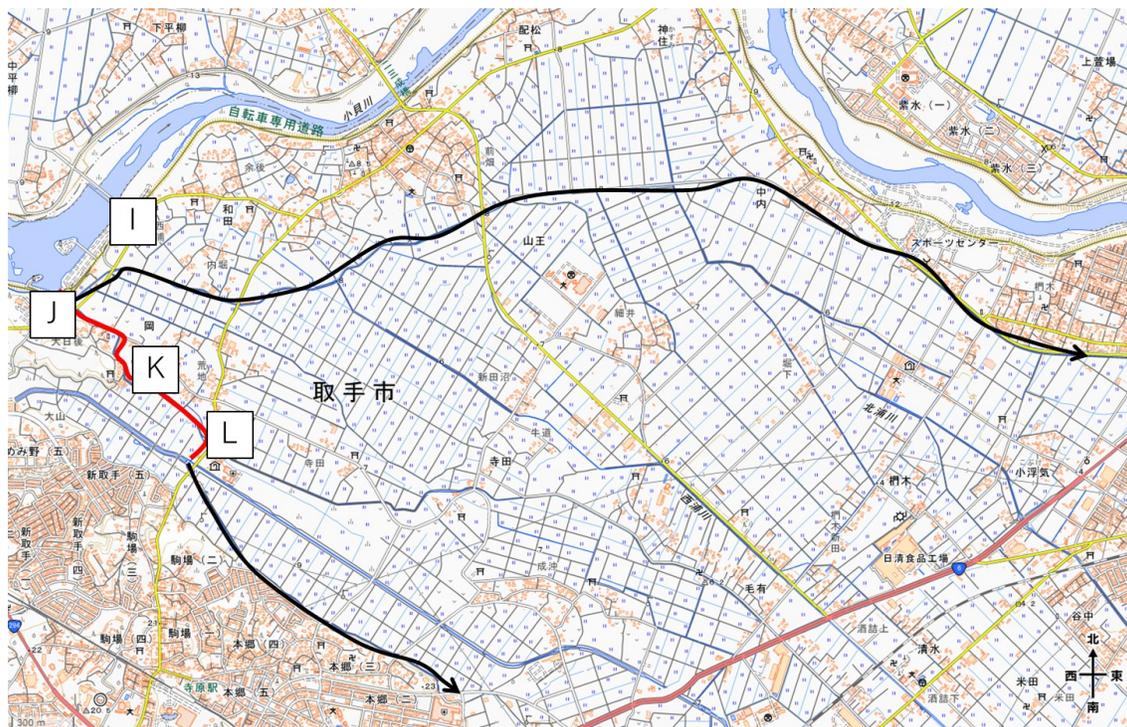


図 4 岡堰



写真3 岡堰

### 3. 豊田堰

豊田堰は寛文年間（1661～1672年）に伊奈忠常によって設置された。豊田新利根土地改良区HP（<http://toyodashintone.com/company.html>）によれば、江戸幕府が新利根川を開削した際に霞ヶ浦に達する用水路を整備したところ水害が多発したためこの用水路を締め切り、豊田堰の先祖となる堰を整備した。1839年に現在の位置に豊田堰が整備され、1901年に煉瓦造りの堰となり、1977年に現在の頭首工（写真M）となった。

用水路は写真N地点で二股に分水し、小貝川の堤防を背に左に分水した用水路はすぐ北東方向と東方向に分水する（写真O）。東方向への用水路はところどころに揚水機場がある。水路の様子は写真Pのような感じである。豊田堰へは取手駅から北方車庫行きバスで羽根野バス停下車、そこから徒歩15分である。

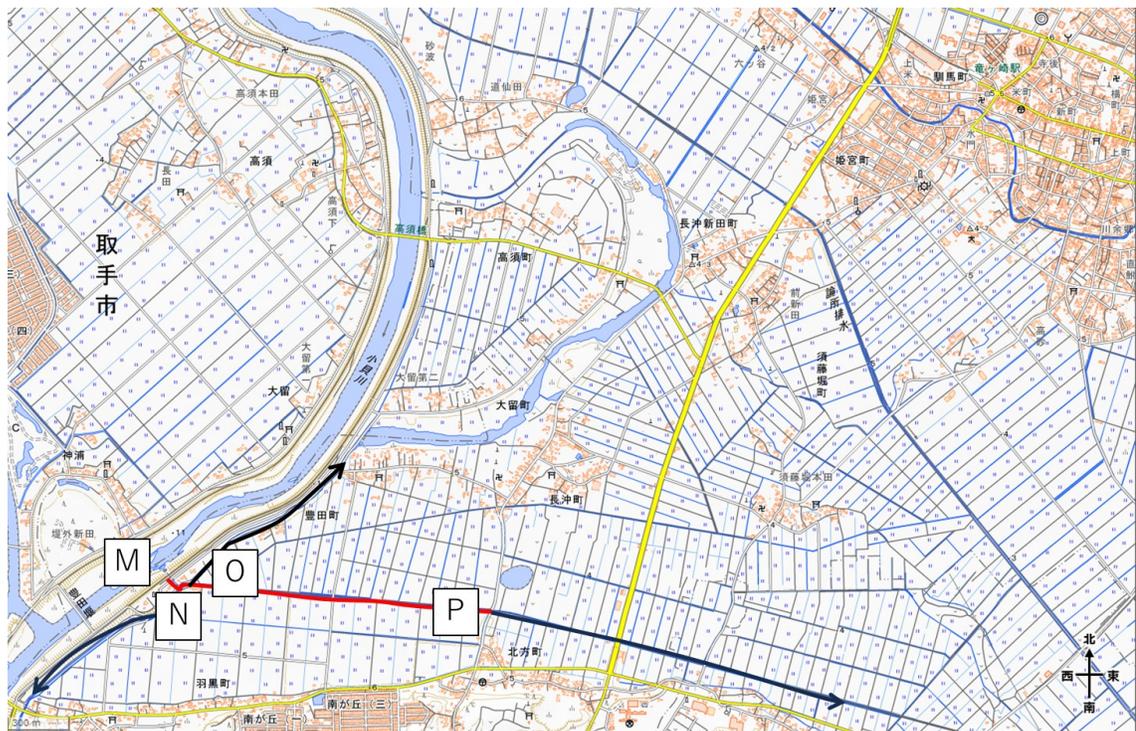


図5 豊田堰



M



N



O



P

写真4 豊田堰